

□学校教育目標□

〔やさしく かしく たくましく〕

人間力【自立（自律）と共生】・学力の育成

めざす子どもの姿 《思いやりのある子・進んで学ぶ子・チャレンジする子》

第5号

令和7年7月18日

ハッピー布津笑楽校

南島原市立布津小学校

文責：校長 横田 秀富

1学期の閉幕です。ありがとうございました！

梅雨も史上最短で明けたかと思うと、猛暑日も多くなり、熱中症警戒アラートが発令される日も増え、子どもたちも昼休みに外遊びができない日も出るほどでした。暑さが厳しくなればなるほど、水泳の授業を楽しみにしている児童も多かったようです。

さて、今日は1学期の終業式を行いました。いろんな思い出が頭に浮かんできました。

4月に入学してきた1年生も学校生活に慣れ、元気に学習をしてきました。また、2～6年生の子どもたちも新たな学年での学校生活を充実したものにすることができたようです。日々、全職員一丸となって「人間力（自立・自律と共生）」と「自ら学ぶ力（学力の向上）」の育成に努めているところです。1学期を振り返り、よりよい2学期の教育活動を進めることができるように研修を深めるとともに充電します。

1学期の学校教育活動に対し、皆様のご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。明日から44日間の夏休みを迎えます。子どもたちの生活の中心は家庭・地域となります。「長い夏休みを元気で安全に過ごし、普段はできない体験をたくさんしてほしい」ということを終業式で子どもたちに話しました。2回の登校日、そして2学期開始の9月1日には、すべての子どもたちと笑顔で元気に会えることを楽しみにしています。

ハッピー布津笑楽校日記

6/22 海岸清掃・すくい体験(PTA主催)

天候も心配されましたが、一年ぶりに海岸清掃・すくい体験が実施されました。総勢約150名の参加があり、よい思い出ができたのではないのでしょうか。

最近は、すくい漁を行っているところも非常に少なくなっており貴重な体験だと聞いています。地域の伝統をいつまでも引き継いでいけることは大変素晴らしいことです。私は、長女の結婚式の為、他県におり、参加できなかったことが大変残念でした…。

事前の準備・お世話くださいましたPTA本部役員さん、環境整備部の皆さんに感謝いたします。

6/26 セタ集会(1・2年)

各家庭や地域のおじいちゃん、おばあちゃんのご協力を賜り、体育館でセタの飾りづくりを実施しました。たくさんの笑顔とふれあいのシーンがあり、心がほっこり温かくなりました。

完成したセタ飾りは西側児童玄関に設置しました。

6/25 「命」を見つめる講話

長崎っ子の心を見つめる教育週間ですので、「命」ということについて校長が話をするようになっています。私は、たった一つしかない「命」（自分も周りの人も）を大切にすることを歌で伝えたいと思い、今年は竹内まりやさん（子どもたちで知っている人はいないでしょう…とある職員から言われました。分かっています。でも音に言葉をのせて。歌と言葉に心を込めたいのです。）の「いのちの歌」を弾き語りしました。いい歌なんですよ。昭和世代の歌ですが…。

大好きなフレーズがあります↓
♪生まれてきたこと育ててもらえたこと、出会ったこと笑ったこと♪そのすべてにありがとう♪
このいのちにありがとう～♪

私の歌は、まあ、ともかく。興味がある方は、ぜひ、検索してみてください。

27日の授業参観では、各学級において「生命尊重」をキーワードにして、道徳科の授業を公開しました。ご家庭でも機会をみつけて「命」について話し合ってみてください。

6/25 デイサービス訪問(3年)

3年生が総合的な学習(福祉)の一環としてあけぼの荘に訪問をさせていただきました。施設内の見学や利用者の方々とのふれあいをすることができ、利用者の皆様にも大変喜んでいただいたとのことでした。引率した職員からも入所しているお年寄りの方々とお話をしたり肩たたきをしたりするなど心温まる時間が流れたとの報告がありました。今後も地域の方々とも子どもたちが触れ合う機会をつくっていただきたいと思います。

7/9 衛生センター見学(4年)

社会科での学習を深めるために南有馬町にある南島原市衛生センターに見学に行きました。各家庭から出されるごみの行方はどうなっているのか、実際に確かめることができました。持ち込まれるごみの計量器に乗ったり、燃えるごみを集めるピットや生ごみの処理について見学をしたりと学びを深めました。ごみの悪臭を実感して顔を歪めている子が多かったです…。普段の生活で「ごみを減らすこと」の大切さにも思いを寄せることができました。

1学期も終わろうとしているころ、嬉しいことが2つありました。それは、休み時間に校長室にきた子が「校長先生、いのちの歌を歌ってください。」と何気なく口にしたこと。

もう一つは、校長室に来た子に「この前、校長先生が歌った歌の名前、何やった?」と聞いたところ、「いのちの歌」と即答したことでした。上手だったかどうかは、聞く勇気がなかったのも、聞きませんでした…。もちろん心を込めて歌いましたので、少しでも子どもたちの心に残っていることにささやかな喜びを感じました。

次は、平和集会です。流行りのミ〇ス〇〇—ン〇ッ〇〇さんの歌でも弾き語りしようかと思いましたが、グッとこらえて、やはり長崎と言えば、福山雅治さんの「クスノキ」をチョイスしようと考えています。「平和」への思いを込めてチャレンジします。

ハッピー布津笑楽校ミニライブラリー

1学期の授業日数は1年生が70日、2~6年生は72日でした。授業日数は1年間で、約200日を予定しています。誰でもそうですが、子どもたちも一人一人得意な教科や苦手意識のある教科があることでしょう。なんでもできる人はそうそういませんね。だから世の中、楽しいのではないのでしょうか。

さて、本日、学級担任が通知表を一人一人の子どもたちに渡しています。お子さんがどんなことができるようになったのか。どんなところが成長したのか。ぜひ、お子さんと話題にさせていただき、成長を認め褒めていただき、今後の期待については励ましていただくと幸いに存じます。子どもの成長は、保護者の皆様にとっても、学校において共に生活し、教育に携わる私たち学校職員としても最大の喜びでもあります…!

「一日に一つ学べば、一年で三百六十五も身につく」信玄流 学問のすすめ

「人を木に例えるならば、学問はその枝葉にあたる。枝葉がよく茂った立派な木になるためには、大いに学問をしなければならぬ。」

武田信玄は、家臣との懇談の中で、学問の必要性を説いている。

では、どんな心構えで学べばいいのか。信玄のアドバイスは光っている。

「何も書物を読むことだけが学問ではない。それぞれの道を究めることを学問という。自分より優れている人に近づき、話を聞くのもよい。一日に最低一つは学ぶように心がけなさい。そうすれば、1か月で三十カ条学んだことになる。一年たてば三百六十五余り身に付いたことになる。去年の自分よりも今年の自分のほうが、はるかに向上しているはずだ、頭を下げて、人の良いところを学び取るのは、少しも恥ずかしいことではない」

戦国乱世を勝ち抜き、信長、家康に恐れられていた信玄自身が、若き日から実践してきた心得なのだろう。

一人の人間として、生涯にどれだけ立派な枝を伸ばし、多くの青葉を茂らすことができるか…。

それは、一日一日の、小さな努力の積み重ねの結果である。

【こころの道 木村耕一 著 | 万年堂出版より引用】